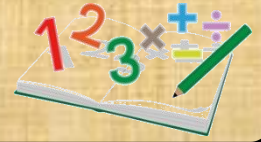




算数・数学部報



夏休み各研修会の報告

☆授業力・教師力アップセミナー（基礎編）

7月28日（水）に授業力・教師力アップセミナー（基礎編）が岡崎コンファレンスセンターで行われました。東京学芸大学附属竹早中学校の小岩大先生に「数学的な見方・考え方を働かせる授業について」について、世話係の小島由起子先生（新香山中）と北村優也先生（竜海中）、田中大貴先生（額田中）に『基礎学力調査』、『アイデア集』の利用の仕方、チーム学習について、お話ししていただきました。

小岩先生には、数学的な見方・考え方を働かせる授業づくりのポイントを授業実践の紹介をしながら説明していただきました。ねらい（期待する子供の姿）を明確化（具体化）し、ねらいに向けて深める発問を考えながら教材研究を行う。そうすることで、数学的な見方・考え方を働かせる授業づくりにつながっていく。授業で生徒の考えや態度を積極的に価値付けて称賛するために、教材研究を通して、見方・考え方を働かせている子供の姿を見通しておくなど、実際の小岩先生の授業映像を用いながらお話ししていただきました。小島先生と北村先生には、算数・数学部の研究の成果の活用の仕方について、田中先生にはチーム学習について教えていただきました。どの内容も2学期からの授業に取り入れてみたいと感じ、とても充実したセミナーとなりました。



【基礎編参加者の感想】

子供の興味を引く手だてとして身の回りの問題を扱い、算数・数学の有用性を味わうことは大切だと思っています。問題として扱う際は、条件を仮定し、理想化・単純化していくなど、日ごろの授業での教材研究をしっかり行う必要性を改めて感じました。私は、小学校2年生を担当しているので、2学期の九九の場面の導入で、身の回りの問題を扱い、子供の興味を引くような授業を行っていききたいと思います。
 <文責：社本 匠（秦梨小）>

☆授業力・教師力アップセミナー（応用編）

◆算数科教育は、7月30日（金）に総合学習センターで行われました。竜南中学校長の平任代先生と北中学校の西尾修一先生にお話ししていただきました。

平先生には、全国学力・学習状況調査の問題をもとに、「深い学び」につながる問題を解いたり作ったりすることを通して、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくりで大切にしたい視点を教えていただきました。

特に「振り返り」は、思考を振り返ることに意味をもつ場面とすることで、書かせる場面や、ノート整理の習慣化の大切さを教えていただきました。

西尾先生には、御自身の授業の実践例をもとに、主体的・対話的で深い学びとなる授業づくりのヒントを教えていただきました。

◆数学科教育は、8月3日（火）に総合学習センターで行われました。上地小学校長の鈴木勝久先生と城南小学校の秀野亜友先生にお話ししていただきました。

鈴木先生には、「新しい学習指導要領において期待される学び」について、國學院大学の田村学先生の資料や、連尺小学校の授業の映像をもとに、授業改善のポイントを分かりやすく説明していただきました。特に、子供たちの関わり合いの中で授業が深まっていくため、話し合い（アウトプット）につなげていく発問が大事になると教えていただきました。

秀野先生には、全国学力・学習状況調査をもとに、子供たちが説明する授業になるように、根拠をもとに過程を説明することなど、意識したいことを教えていただきました。

算数、数学ともに、充実したセミナーとなりました。

【応用編参加者の感想】

算数、数学ともに、主体的・対話的で深い学びとなる授業づくりのヒントとなるものばかりでした。特に、授業の振り返りにおいて、書かせる内容やタイミングなど、次時の授業につながるように、2学期の授業に生かしていきたいと思いました。
 <文責：濱田 明弘（岩津小）>



☆愛知県小・中学校教育課程研究集会(算数・数学科)

8月6日(金)に愛知県総合教育センターで、県教育課程研究集会が開かれました。

会の前半は担当指導主事からのお話があり、後半は参加者がレポートを持ち寄り、各市町での算数・数学科の実践や事例を基にした研究協議会が行われました。

この研修に参加して、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価の仕方が特に重要であると感じました。授業については、学習指導要領に示された資質・能力の育成を着実に進め、ICTも最大限活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実すること、評価の仕方については、指導と評価の一体化を図るために、教師が指導のねらいに応じて授業の中での児童生徒の学びを振り返り、適切に評価していくことが大切だと感じました。

<文責：松金 正樹(矢作北小)>

☆アイデア集の授業の紹介(小学1年10月)

単元：おおきくらべ(P82)(アイデア集 第32集 P10,11)

準備 粘土, A3用紙, ワークシート, むれ雑巾

学習課題 「へびさんのながさをくらべるほうほうを かんがえよう」



粘土を使った具体的な実測活動を通して、長さの量感を育める学習方法を紹介します。まず、単元の学習の導入時に全員が同量の粘土をもらい、できるだけ細く長いへびを作ります。その後、作ったへびの長さを写真のように身の回りのもので表します。基準量になるものを一人ひとつ選び、「〇〇のいくつ分」で表して、結果をワークシートに記入します。次に、比べ方を考えて発表します。自分が考えた基準量を使って、実際に教師見本のへびと長さ比べをします。どちらのほうが長いか、「〇〇のいくつ分」を使って理由を言います。最後に、友達とへびの長さを測って比べ合う活動を行い、調べた結果をワークシートにまとめます。楽しい粘土を使ったへび作りから、自分が作ったへびの長さを調べる活動に移っていくことで、長さを求めたり比べたりすることに関心を持ち、主体的な学びの姿勢を養います。また、友達と長さを測って比べ合う場面を設定することで、楽しみながら問題解決への達成感を得られます。

	くらべるもの	の	いくつぶん
(れい)	えんぴつ	の	4ほんぶん
じぶん	けしごむ	の	9こぶん
ともだち		の	
		の	
		の	

ワークシート

<文責：大竹紗弥加(形埜小)>

岡崎市教育研究大会

今年度、若手の先生を中心に、算数で39本、中学校で15本のレポートが提出されました。算数については、一昨年度よりも多くのレポートが提出されました。小中学校ともに、子ども達にとって身近なものを扱った教材の開発や、チーム学習などの子ども達の関わり合い・学び合いの工夫など、多くの実践が発表されました。また、新しい取り組みとして、スクールタクトなどタブレット端末のアプリケーションを使って意見交流を行ったり、発問の工夫を取り入れたりする実践なども見られました。

ぜひ、提出されたレポートを読み、今後の授業のアイデアにしてほしいと思います。そして来年度こそ、より充実した協議のできる研究大会になることを期待しています。

祝！ 県教研 正会員

算数 濱田 明弘 先生(岩津小), 濱中 利矩 先生(城南小)

数学 江口 京弥 先生(竜海中), 国分 貴寛 先生(六北中)

岡崎市の代表として、ご活躍を期待しています!!

研究会案内(算数・数学に関わる研究会)

今年度、算数・数学に関わる研究会が2学期に行われます。日程は下記の通りです。なお、詳細は、各学校から送付される案内をご覧ください。ぜひ参加していただき、学びを深めましょう。

- ・10月13日(水) 羽根小学校(授業公開)
- ・10月20日(水) 翔南中学校(授業公開)
- ・10月27日(水) 広幡小学校(授業公開)
- ・11月12日(金) 竜海中学校(授業公開)

